

おおいた国際交流プラザ

OITA INTERNATIONAL PLAZA

# La Estación

vol. **28**

2010

ラ・エスタシオン

スペイン語で、局や駅の意。当誌が県内の国際交流・協力情報の発信地として、広く親しんでいただけるようお願いを込めてつけました。

寄稿 **多文化共生なくして地域に未来なし!**……1-2

第4回 子どもたちに夢と希望を(須磨 珠樹氏)

竹田市におけるドイツとの国際交流……3

国際的に活躍している人々の紹介……4

久住のカフェ・ゲート

JICAデスク大分からのお知らせ……4

Event Calendar……5-6

私たちの声を聞いてください!……7

Information……7

(財)大分県文化スポーツ振興財団

「移動式の家モンゴルと北の空(北極星)」写真家:渡辺了孔

## 第4回

# 子どもたちに夢と希望を

昨年度のNPO法人多文化共生マネージャ全国協議会の副代表理事高木知彦氏（滋賀県商工観光部国際課 主査）、同理事高橋伸行氏（舟橋市子育て支援部児童家庭課 主査）、同理事前川仁三夫氏（NPO法人とんだばやし国際交流協会 事務局長）のリレー寄稿に引き続き、今年度は、国際交流協会職員の須磨珠樹氏（(財) かながわ国際交流財団多文化共生・協働推進課）、須藤伸子氏（(財) 仙台国際交流協会 企画事業課事業推進係）、原由理恵氏（射水市民国際交流協会）にバトンタッチし、各協会における多文化共生施策についてご紹介いただく予定です。第4回目は須磨珠樹さんの寄稿です。

前回（vol.25号）では、神奈川県概况や文部科学省委託事業「定住外国人の子どもの就学支援一駆け橋教室」事業について簡単にご紹介しましたが、今回は当財団が行っている外国につながりを持つ子どもに関する事業についてご紹介します。

### ▶ みんなで育てる多文化共生

神奈川県では、2000年から毎年「あーすフェスタかながわ（以下、フェスタ）」というイベントを開催しています。フェスタの合言葉は「みんなで育てる多文化共生」で、今年は第11回目を迎え、去る9月11日、12日に実施しました。フェスタは、事務局は県と当財団にありますが、企画段階から民族団体・NGO・市民グループなど多様な国籍、文化を持つ実行委員、企画委員が話し合いを重ね、企画と準備を進めていくことが特色です。フェスタでは、世界の屋台村や多文化体験プログラムなどの企画がありますが、来場した人が「お祭りに参加して楽しかった」と、一過性の体験で終わらないよう、何かしら多文化共生に関する気づきを持って帰ってもらえるような工夫をしています。

今年は「子どもたちに夢と希望を」をテーマに掲げ、プログラムの一つ、外国籍県民フォーラムでは「外国につながりを持つ子ども達の教育問題を考える～母語を大切にしたい日本語・教科学習支援を通じて～」と題し、日本語指導や教育相談などに関わる支援者や、中学3年生のときに中国から来日し、現在は日本の大学に通う大学生をパネリストとして招き、子どもの抱える課題や必要とされる学習支援についてパネルディスカッションを行いました。

日本で定住することを考えるとき、高等教育を受けていると職業の選択が広がります。高校卒業資格を持てるか否かは、子どもたちの将来に大きく関わることですが、学習言語としての日本語の習得や日本の教育制度の理解等、日本の教育システムを経験していない保護者や外国につながりを持つ子どもにとって、高校進学は大きな壁となっています。今回のフォーラムでは、学校での対応だけでなく地域のボランティアによる学習支援の現状や、子どもが必要としている支援は日本語学習なのか教科学習なのかを見極め、一人ひとりの子どもにあった教育を提供することの重要性、不就学の子どものいる場合はその理由を様々な角度から考え、子どもや家族や学校・教育委員会等の関係機関との調整や教育相談にのれる専門機関や人材が求められていること等について話し合われました。パネリストの一人である大学生の方は、中国では優秀な成績だったのですが、来日時には日本語が全くできず、中学3年生で最初に受けた定期試験の成績は良くなかったそうです。そのような中、日本語学習支援者の一



あーすフェスタかながわ2010「外国籍県民フォーラム」の様子。「外国につながりを持つ子ども達の教育問題を考える」をテーマに意見交換しました。

人が次の定期テストをボランティアとともに中国語に翻訳し、その中国語の試験を受験させたところ、学年でも上位の成績を修め、周囲からの評価も変わり、本人も自信を取り戻した結果、現在は大学2年生になり学生生活を楽しく送っています。学習支援者は、「試験後の彼の成績を見た教員の『私たちはなんていう評価をしてしまっていたのだろう。この子は高校に行くことができなかったかもしれない。本当に大変なことをしていた。』という言葉が今でも印象に残っています」と話して下さいました。他にも、アメリカでは、難民・移民を多く受け入れている学校は、英語のできない子どもはテストのときに母語の辞書を持ち込むことができたり、英語を読むことができない子どもには教員が問題を読み上げる等の措置が取られている州もあり、子どもたちの何を見て、どのように評価することが望ましいのかを考えること、そして子どもの母語をどう捉えていくか、という視点を持つことが大事ではないか、という意見も出ました。



あーすフェスタかながわ2010「しゃべり場」の様子。家族をテーマに、外国人の家族だけでなく、日本人の家族についても語りあいました。

### ▶ 高校進学への課題

神奈川県では、来日直後の日本語の習得もまだ十分でない人向けの公立高校受験制度として、在留3年未満の外国籍の人を対象とした「在県外国人等特別募集（以下、在県枠）」という特別枠が1995年より設けられています。2010年度現在、10校で実施し、定員総数は104名となっています。しかしながら、希望者の多い政令市（横浜市、川崎市）にある在県枠設置校への志願倍率は高く、来日して日が浅い生徒や、教育制度の違いで未習部分のある生徒にとっては救済になっていないとの声もありました。そのため、当財団とNGOとの協働事業として2009年7月から1年間、「外国につながりをもつ子どもの教育に関する調査プロジェクト（※）」を実施し、在県枠に該当した卒業生の進路についての量的調査（アンケート）と、県立高等学校の定時制課程に在籍する外国につながりを持つ生徒やNGO関係者への質的調査（インタビュー）を行いました。これにより、在県枠を持つ高校の地域的な偏りと定員数の不足、選抜のシステム（後期選抜にしか設置されていない）等の課題が見えてきました。



「地球市民学習のための教材総合展」の様子。多文化共生を体験する教材のワークショップも合わせて開催しました。教員、NGO関係者等多くの方にご参加いただきました。

現在、当財団の「かながわ民際協力基金」という助成金では、NGO（多文化共生教育ネットワークかながわ）の実施する「たぶんかフリースクールよこはま」という、母国で中学を卒業後に来日したり、学齢超過のため、日本の中学校に行けない、あるいは夜間中学校へ通う15～18歳の高校進学を希望する子ども向けの学習支援教室への支援も行っています。様々な理由から日本に来た子どもたちが、日本の教育制度の中で見えない存在になってしまわないよう、そして、夢と希望を持ち、それが実現できる社会になっていくよう、今後も私たちは活動を続けていきます。

※多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)と当財団が協働で企画・実施した「外国につながりをもつ子どもの教育に関する調査プロジェクト」の報告書をご希望の方には配布しています。

**入手方法** 宛名を明記し、240円分の切手を貼付し、「調査報告書希望」と明記したA4封筒を同封して下記までお送りください。

**申込先** 〒247-0007 神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1  
財団法人かながわ国際交流財団 多文化共生・協働推進課



#### Profile

**須磨 珠樹** (財団法人かながわ国際交流財団 多文化共生・協働推進課)

2003年4月 財団法人神奈川県国際交流協会(現かながわ国際交流財団) 入職  
経営管理課、国際協力課所属

2008年4月 財団法人自治体国際化協会 派遣

2010年4月 より現職

## 竹田市におけるドイツとの国際交流

竹田市商工観光課 林 寿徳

竹田市は1989年（当時は直入町）から温泉を核にして、ドイツ国バートクロツィンゲン市と国際交流を続けている。

全国屈指の炭酸泉「長湯温泉」を有する合併前の直入町は人口わずか2,900人。この寒村に国際交流という歴史的な挑戦を促したのは、日本トップの入浴剤メーカーからの一通の報告書。入浴剤開発のための炭酸泉調査の結果を町に報告してくれたのである。それには「日本一の炭酸泉」というキーワードが示されていた。

早々に企画された「全国炭酸泉シンポジウム」は、世界有数の炭酸泉の地ドイツを知らしめ意識させてくれた。以来、手探りで始めたドイツ友好都市とのローカル国際交流は止まることなく続いている。

1992年開催の「西洋と日本の温泉文化フォーラム」は、ドイツから市の関係者やコーラスグループなど32名が参加した初めての国際イベントとなった。このフォーラムに合わせて同時開催したドイツ物産フェアでは、ドイツワインが飛ぶように売れた。その後、直入町のオリジナルラベルで化粧したドイツワインはフルティで日本人にあうと評判となり、直輸入が拡大していく。

1998年にはバートクロツィンゲン市から広大なブドウ畑が町に寄贈された。そこから造られるドイツワインは年間1万本以上輸入され、直入町でしか手に入らない、つまり「旅をしないワイン」として地域の特産品に育っている。この筋骨きのない貿易というドラマの挑戦を支えてくれたのは、まぎれもなくドイツの友人たちであった。

その年、国際交流10周年記念の国際シンポジウム「温泉と文化」をバートクロツィンゲン市からの訪問団60名を迎えて開催

した。さらに、念願の長湯温泉のシンボル施設「御前湯」をオープンさせた。「御前湯」の名前は岡藩の殿様が湯治場として利用していたことに由来する。復活した名門の湯は、その泉質の素晴らしさに加えドイツとの国際交流イメージも重なり年間13万人が訪れる人気施設となった。翌年、「御前湯」はバートクロツィンゲン市の温泉館「ヴィタクラシカ」と国際姉妹施設の提携書を交わした。「御前湯」はドイツの雰囲気、イメージを設計に生かしており、「ヴィタクラシカ」には日本庭園や日本式檜風呂が造られていった。

また、この2年前にバートクロツィンゲン市の中学生と相互に訪問しあった学生交流が、この年からは恒例的行事として毎年実施されることになった。今年も10名の中学生がドイツへ向かい、ホームステイ交流でミニ民間外交が行われる。

さて、合併前の2004年には国際交流15周年記念として国際イベント「炭酸泉と健康フォーラム」を開催した。バートクロツィンゲン市からの訪問団は市長以下24名。正式な国際姉妹都市の締結はこのときに行われた。

そして一昨年、バートクロツィンゲン市1200年記念式典には竹田市長以下26名が参加した。ドイツの地で竹田市訪問団を驚かせたのは、本市の建築士たちが造り上げた温泉館「ヴィタクラシカ」の日本家屋（休憩室）や岡城の石垣を模した日本庭園であった。まさに、これまでのローカル国際交流が築いてきたドイツとの「友情の結晶」であった。

温泉という共通のテーマで結ばれたローカル国際交流。経験のない取組への不安は隠せなかったけれど、積み上げてきた信頼関係はそれを遥かにしのいできた。そしてこれから、更なる歴史をきざむ交流のストーリーが展開されていく。



1992年国際イベント「西洋と日本の温泉文化フォーラム」が開催され、旧直入町の岩屋万一町長と旧バートクロツィンゲン町のフックス・ヴォルフガング町長が会う。



2008年竹田市長訪問団はバートクロツィンゲン1200年記念祭典等に出席した。パレードに出演した傘踊りグループのパフォーマンスは高い評価を得た。



ヴィタクラシカはバートクロツィンゲン市にある温泉施設。1996年には直入の職人によって日本式庭園が造営、2008年には「竹田まちなみ会」によって日本式家屋が建設された。



直入中学校とマックスブランク校は姉妹校であり、1993年の合併後、その交流を竹田市内全域に拡大した。



お問合せ

竹田市役所 商工観光課  
〒878-0011  
大分県竹田市大字会々2250-1  
TEL:0974-63-4807  
FAX:0974-63-0701  
Email:kanko@city.taketa.lg.jp

# 人物の紹介 ~ 国際的に活躍している人々の紹介 ~

コーヒーとケーキの香りが漂い、どこを見てもパッチワーク、トルペイント、そして切り絵等の手作りの作品。壁にはグリム童話をモチーフにした絵画。ドイツを感じさせる雰囲気。それはカフェ・ゲーテ。カウンターの後ろでは、ドイツ人が最も好きなコーヒーを入れる、佐藤カーリンさんの姿。「自家焙煎の珈琲です。スーパー等の珈琲はあまり新鮮ではないので、酸味が強いよ。私達の珈琲はいつも新鮮なので胃に優しいし、83℃の湯で入れて頂くといい香りがします。」と。

夫の久司さんとはドイツで知り合い、1969年に結婚。1983年来日し、自家焙煎の珈琲屋を開店。1991年には旧竹田市に引っ越し、1994年に旧久住町に引っ越した。それ以来パッチワーク教室を開いている。パッチワークの展示会を開いた時に、手作りケーキと珈琲を提供したのが、今のカフェ・ゲーテ開店のきっかけである。

取材者のドイツ人の僕にとって、カフェ・ゲーテのケーキを食べるのはとても懐かしい。菌ごたえがありコクのある味で、珈琲にぴったり合う、本物のドイツケーキだ。ときには

典型的なちよっと酸っぱいドイツ風ライ麦パンも提供している。

カーリンさんはもう27年間日本に暮らしているので、当たり前だが日本語が流暢。だが、「語学学校に通ったことはない。テレビや新聞、周りの人の話を聞くことで独学で日本語を学んだ」とのこと。トルペイント等の趣味に並んで、ペットにも情熱を注いでいる。カーリンさんは捨てられた猫や犬を引き取って飼っている。「日本では殆どの猫は不妊手術を受けないよ。それで毎年多くの猫は捨てられたり、殺されたりする。人々に無責任なことをやめて、動物をちゃんと守ってもらいたい。」けれど現在はペットを引き取っていない。「ドイツでは動物ホームなどが沢山ある。私にはもう犬や猫を引き取る余裕がなくて心苦しいけど。」と。

地元だけでなく、竹田市のドイツ姉妹都市、バート・クロツインゲンにも友達がたくさんいる。その姉妹都市交流が始まった20年前から架け橋として、通訳や翻訳のボランティアで国際交流に大きな貢献をしてくれている。カーリンさん、これからも頑張ってください。

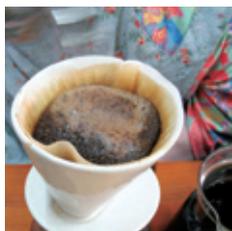
取材：グリェツマハー・ゼンケ

## 久住のカフェ・ゲーテ

田舎染み心地よさ。  
自家焙煎の珈琲の味わい深い香り



珈琲一杯:400円  
珈琲とドイツケーキのセット:650円  
自家焙煎珈琲の豆100g:600円



カフェ・ゲーテ  
営業時間:12:00~17:00  
日・月は休業日です。  
TEL/FAX 0974-76-2507

パッチワーク教室を  
開催しています。  
日にち:第1及び第3の火曜日  
時間:10:00~12:00  
場所:カフェ・ゲーテ  
申し込み必要

カフェ・ゲーテ  
大分県竹田市久住町大字久住6192  
TEL+FAX:0974-76-2507

## JICA デスク大分からののお知らせ

青年海外協力隊で今年1月からモンゴル国に派遣されている渡辺了孔(わたなべりょうこう)さん。零下の世界が広がるモンゴルで、元気に愉しくがんばっています。



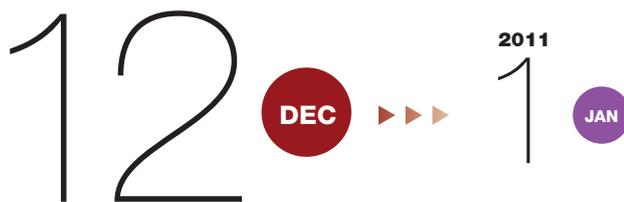
チンギスハーンが最初の戦いに勝利した地、モンゴル国セレンゲ県の教育局に配属され、まもなく一年が過ぎようとしています。教育局では教育スタジオにおいて、テレビを使い視聴覚で解りやすい番組制作に皆さんと取り組んでいます。モンゴルといえば、草原と馬というイメージが浮かびますが、もうひとつは厳寒のモンゴルです。冬は零下30度以下になり、全ての川は凍りつきます。テレビを見るのが好きなモンゴルの皆さんは暖かい部屋で冬の夜長を過ごします。移動式の家モンゴルゲルにもテレビがあります。私たちの制作した番組も放映されますので、皆さんに喜んでいただけるよう夢見て過ごしています。



国際協力推進員の川崎(かわさき)までいつでもどうぞ

〒870-0029 大分市高砂町2-33 OASIS ひろば21地下1階 国際交流プラザ内  
TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052 E-mail: jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp





## プラザの各相談室のご案内

### タガログ語無料相談

毎月第1土曜日  
 時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ  
 申し込み：不要  
 相談員：吉武ロドラ（大分県フィリピン友好協会 会長）  
 相談料：無料  
 ※毎月1回土曜日（13:00～16:00）国際交流プラザで開催するフィリピン人のための無料相談会です。悩みを抱えている方、タガログ語で気兼ねなく話をしたい方はプラザにお越しください。

### 入国・在留国際手続無料相談

毎月第1日曜日  
 主催：ライフサポート大分  
 時間：13:00～16:00  
 会場：国際交流プラザ  
 相談料：無料  
 対応言語：日本語・英語  
 ※主として法律相談ですが、それ以外の内容でもお困りの場合はご来館ください。また、相談内容が外にもれることはありません。お知り合いの外国籍の方がトラブルや悩みを抱えている場合には、その方にぜひお伝えください。外国の方とのかかわりの中でお悩みの方の相談も受け付けます。

### 在住外国人のための無料相談室

毎月第3水曜日  
 時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ  
 申し込み：不要  
 ※ただし、通訳手配のため、日本語、英語以外による相談は2日前までに要予約。  
 相談員：伊藤精（行政書士）  
 相談料：無料  
 ※県内在住外国人のための相談室です。

### 中国語無料相談

毎月第2・4火曜日及び毎週木曜日  
 時間：火曜日：13:00～16:00  
 木曜日：10:00～13:00  
 会場：国際交流プラザ  
 申し込み：不要  
 相談員：崔 文玉（ツエイ・ブンギョク）  
 相談料：無料  
 ※県内在住中国語圏の方のための相談室です。  
 お問合せ先：  
 TEL：097-533-4021 FAX：097-533-4052  
 E-mail:in@emo.or.jp

## DEC



### 主催

4日（土）タガログ語無料相談（毎月第1土曜日）

時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ



### 主催

4日（土）国際理解講座 ワークショップ

「ピンチはチャンス! 異文化対立を活用するコミュニケーション」

今回の国際理解講座では、異文化間摩擦をテーマに、対立を活用するためのコミュニケーションを取り上げる。「文化」といっても、国と国の衝突だけではない。職場にだって文化はある。得意先と自分のやり方が違って戸惑ったり、上司や部下との間にジェネレーションギャップを感じたりした経験のある方もいらっしゃると思う。これも、「文化」の違いが原因かもしれない。対立を協調に変えるコミュニケーションのコツを一緒に学ぶ。

講師：株式会社ライフコンサル大分の福嶋崇氏

日時：12月4日（土）14:00～16:00

場所：ichiko総合文化センター（B1F）Space Be 内【映像小ホール】

予約：必要 参加費：無料

TEL：097-533-4021 Email：in@emo.or.jp



5日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）

時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ



6日（月）～10日（金）

APUのMulticultural Week (African Week)

APUの学生構成を活かし、さまざまな国・地域の理解を促進することを目的に、年に2回、「Multicultural Week」を実施しています。「Multicultural Week」とはイベントの総称で、この「Multicultural Week」期間中には、学生から公募した様々な「ウィーク」が開催されます。

場所：立命館アジア太平洋大学 Student Office 河野 TEL：0977-78-1104

詳細：<http://www.apu.ac.jp/studentsupport/modules/apulife/index.php?id=274>



11日（土）大学公開講座

第4回ドイツのマス・メディアに現れた日本（人）像

「日本の主婦は幸せな〇?政治家は〇流?ドイツの「仰天」報道を点検する。」

日時：12月11日（土）14:00～15:30

場所：大分県立芸術文化短期大学 人文棟

講師名：安岡 正義（大分大学）

～多文化共生社会のために～

申し込み・問合せ先

大分大学イノベーション機構

リサーチ・ファクトリー

TEL:097-554-7021 FAX:097-554-7740 メール:research@cc.oita-u.ac.jp



13日（月）～15日（水）

APUのMulticultural Week (Japanese Week)

場所：立命館アジア太平洋大学 Student Office 河野 TEL:0977-78-1104

詳細：<http://www.apu.ac.jp/studentsupport/modules/apulife/index.php?id=274>



### 主催

15日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ



17日（金）国際交流員による映画上映会

映画名：『ホリデイ』（The Holiday）、米国、2006年

キャスト：C・ディアス、K・ウインスレット、J・ロウ他

日時：12月17日（金）19:00～

場所：竹田市総合福祉センター 多目的ホール（市役所の隣）

解説者：クラウドピア・ケール（ドイツ、国際交流員）

お問合せ：竹田市役所 商工観光課 TEL：0974-63-4807



主催

### 18日(土) 第3回フランス社会文化理解講座 「フレンチタイムとバカンス」

フランス人は、個人の時間を非常に大切にします。仕事で、プライベートで、バカンスで、フランス人はどのようにして有意義な時間を過ごしているのか、実際にフランス人国際交流員のアンブル氏の話聞き、もっとフランスについて深く知ってみませんか?

時間: 12月18日(土) 14:30~16:30

場所: ichiko総合文化センター (B1F) Space Be 内【映像小ホール】

予約: 不要 参加費: 無料

TEL: 097-533-4021 Email: in@emo.or.jp



### 19日(日) 日墨交流400周年記念演劇国際交流 HECHO EN MEXICO in Oita

ワークショップ参加者募集!! ※日本では大分のみ開催です。

ミゲル ヴァヨン氏によるワークショップ。体と声を使って自由に表現しよう!

俳優志望、演劇に興味を持っている方、自分のスキルを磨きたい方、ダンスの好きな方、コンテンポラリーダンスに興味のある方! 情熱や好奇心を常に持っている人々なら誰でも参加出来るワークショップです♪

日程: 2010年12月4日(土)~8日(水)

定員: 20名 ※事前予約制。18歳以上

会場: 別府市中央公民館(予定)

受講料: 5日間通し 3,000円

用意するもの: タオル、室内シューズ、飲料水、体を動かしやすい服装

詳細スケジュール

12月4日(土) 19:00~22:00

12月5日(日) 14:00~17:00

12月6日(月) 19:00~22:00

12月7日(火) 19:00~22:00

12月8日(水) 19:00~22:00 ※発表会

※8日の発表会は無料で一般の方も見学できます。

お問い合わせ: nadieshda\_japan@yahoo.co.jp

詳細はこちら: [http://www.wix.com/nadieshda\\_japan/nadieshda](http://www.wix.com/nadieshda_japan/nadieshda)



### 23日(祝・木) ドイツ風のクリスマス・マーケット

手作りケーキ、クッキー、クリスマスのグッズ、竹田名物他

日時: 12月23日(祝・木) 12:00~19:00

場所: 竹田温泉「花水月」前(竹田市)

お問合せ: 竹田市役所 商工観光課 0974-63-4807



### 23日(祝・木)・24日(金) べっぴんクリスマスHANABIファンタジア

毎年10万人を超える人出で賑わう冬の名物イベントです。音楽とシンクロナした花火の美しさが感動を誘います。

日時: 12月23日(木・祝)・24日(金) 20:00~21:00

TEL: 0977-24-2828 Email: kanko@beppu-navi.jp

※留学生参加のアジアン屋台もあります。

## JAN



主催

### 8日(土) タガログ語無料相談

時間: 13:00~16:00 会場: 国際交流プラザ



### 10日(月)~11日(火) APUのMulticultural Week (Bangladesh Week)

場所: 立命館アジア太平洋大学 Student Office 河野 TEL: 0977-78-1104

詳細: <http://www.apu.ac.jp/studentsupport/modules/apulife/index.php?id=274>



### 17日(月)~21日(火) APUのMulticultural Week (Taiwan Culture Week)

場所: 立命館アジア太平洋大学 Student Office 河野 TEL: 0977-78-1104

詳細: <http://www.apu.ac.jp/studentsupport/modules/apulife/index.php?id=274>



主催

### 19日(水) 在住外国人のための無料相談(毎月第3水曜日)

時間: 13:00~16:00 会場: 国際交流プラザ



主催

### 22日(土) 第4回フランス社会文化理解講座 「フランスの歴史遺産巡り」

フランスの歴史遺産と言えば「モンサンミッシェル」や「凱旋門」など、数多く存在します。フランスの歴史について学びながら、大分にいながらにしてフランスの歴史遺産巡りをしてみませんか?

時間: 1月22日(土) 14:30~16:30

場所: ichiko総合文化センター(4F) 中会議室1

予約: 不要 参加費: 無料

TEL: 097-533-4021 Email: in@emo.or.jp

## 異文化教室

### スペイン語教室

日時: 毎週月曜日 19:00~20:30

場所: 大分芸術短期大学

講師: アンブル・テスニ工他

メール: anburu1984@gmail.com

### はじめての標準中国語

日時: 初級 毎週火曜日 18:00~20:00

中級 毎週金曜日 19:00~21:00

会場: コンパルホール

月謝: 5000円

問合せ: 王 玉轉(オウ ギョクテン) TEL: 090-9650-7374

### 少林拳と太極拳混元気功

①少林拳: 毎週金曜日 18:00~20:00

会場: 明治明野公民館

②太極拳混元気功: 毎週土曜日 15:00~16:30

会場: コンパルホール

講師: 魏 保強(ギ ホウ キョウ)

対象者: 健康づくり、体力づくり等

TEL: 090-2096-2008 Email: wushu1682005@yahoo.co.jp

### 水墨画講座

日時: ①日時: 毎週水曜日 14:00~16:00

会場: 大分市コンパルホール

②日時: 毎週土・月曜 14:00~16:00

会場: 明治明野公民館

講師: 王 玉轉(オウ ギョクテン)

筆の使い方などから学び、ひよこ、魚などを描きます。誰でもすぐに素晴らしい作品を作れるようになります。

TEL: 090-9650-7374

### パッチワーク教室

講師: 佐藤カーリン(ドイツ)

日にち: 第1及び第3の火曜日

時間: 10:00~12:00

場所: カフェー・ゲーテ(久住)

申込み先: TEL+FAX: 0974-76-2507

## わたしたちの声を聞いてください!

### 子育て体験談

崔 文玉



私は結婚していきなり日本で子供を産むことになりました。当時新米ママの私には、日本の生活習慣や文化の違いに戸惑うばかりでした。中国では子供が生まれたり、おじいちゃんおばあちゃんに手伝ってもらうのが普通です。なぜなら信頼できる人に見てもらうのが若い親として一番安心できますし、それが親孝行にもなるからです。しかし、日本では自分の子供は自分で見るのが当たり前。私は急用ができた時、子供の面倒を旦那のお母さんに頼んだら、先約があるからと断れたのは驚きというよりショックでした。確かに、日本人の老夫婦が一番に夫婦の生活を大切に、その次に子供のことや周りの人のことだったりしますが、中国の老夫婦は大家族の幸せが第一で自分の周りの人も子供達的事も大切にしながら生活するのです。

当時、私と母はお互いの国の生活習慣や文化を理解できずに喧嘩して、また仲直りして、泣いて笑ってやっとお互いを理解しあい、今では私の母親であり、なんでも相談できる親友になりました。

そして、もう一つの発見は中国人の性格である「率直でストレートな話し方」は子育てにも現れるということです。子供を連れて中国に帰省した時、ちょうど子供は湿疹がでていました。公園で遊んでいたら、見知らぬおばあちゃんが寄って来て「あらら〜可哀そうに。早く蓮の葉のお茶を飲ませて。2、3日で良くなるよ〜。」と教えてくれました。また、知らない子連れのお母さんにも「薄く軟膏を塗ったガーゼをあてたらいいよ〜。」とアドバイスをもらいました。日本では子どもの湿疹がでた時、何週間もかけて何か所も病院を回りました。

日本では、見知らぬ人にこんなにたくさんアドバイスをもらわないでしょう。相手の事を思って、余計な事を言わないのが日本式。中国は真逆で、相手の事を思うからこそ、率直で飾らないまま、ストレートに表現するのです。

日本での子育てを通して、日本文化や生活習慣を理解し、両国の文化や生活習慣を「取其精華、去其糟粕」（精華をとり不要な部分を切り去る）と、していきたいです。

# INFORMATION

## 大道陸橋 (一般国道210号:大分市) 全面通行止めのお知らせ!

大分県では、日豊本線の高架工事に伴い平成23年1月17日から平成23年8月頃まで国道210号の大道陸橋を全面通行止め(終日)にして撤去を行います。  
大分市内は渋滞が予想されますので、通行の際はご注意ください。



## 編集後記

日本はOECDやG8等に加盟している先進国でありながら外国人率が1.72%と非常に低く(OECD平均比率:12.9%)、大分県は0.92%で更に低い。プラザのスタッフやサポーター達等が目指している「多文化共生」は現実との乖離が大きすぎる感じもする。しかし大分でも意外に国際的な生活ができることに気がついた。例えば私は大分の当財団の一般職員として仕事し、隣のデスクにはアメリカ人の姿がある。休みの時間は日本の先生に弓道、中国の先生に少林拳、韓国の先生に韓国語といった色々な国の文化を教えてもらっていてとても楽しい。読者やプラザに来られる皆さん方が異国文化に触れたり学んだりしたいなら、海を渡って面白い活動してくれる海外の人達が結構いるから、是非交流して下さい。それらの情報はどうぞLa Estaciónでお調べ下さい。

グリェツマハー・ゼンケ

おおいた国際交流プラザ

## La Estación 2010 Vol. 28

発行日 平成22年11月25日(奇数月未発行予定)  
編集・発行 (財)大分県文化スポーツ振興財団  
国際交流プラザ  
〒870-0029 大分市高砂町2番33号  
OASISひろば21地下1階 iichiko Space Be内  
開館時間: 9:30~19:00  
閉館日: 日曜日・祝日及び第2・4月曜日とその翌の土曜日※ただし閉館日が祝祭日の場合はその翌日  
TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052  
E-mail: in@emo.or.jp  
URL: http://www.oitaplaza.jp/

